

**令和元年9月11日 10時30分～11時45分**

<b>司会</b>	亀岡清泉荘 代表 松野	<b>記録</b>	亀岡清泉荘 代表 松野										
<b>出席者</b> 南部地域包括支援センター・西村さま、民生委員・並河さま、後藤さま、リンクす・吉川さま、利用者さまご家族・上野さま、長澤さま、亀岡清泉荘・宮崎													
<b>欠席者</b> 南条区長・菱田さま、亀岡市高齢福祉課・土川さま、利用者さまご家族・二井さま													
<p>1. 9月11日現在の利用者さまの状況（別紙参照） 小規模多機能ホーム登録利用者さま：26名、グループホーム登録利用者さま：9名 小規模多機能ホーム及びグループホームの利用状況、報告事項等</p> <p>2. 利用者さまの地域について（別紙参照）</p> <p>3. 職員体制（別紙参照）</p> <p>4. 事業活動について（別紙参照）</p> <p>5. 事業所内の活動について（別紙参照）</p> <p>6. 今後の予定（別紙参照）</p> <p>7. 小規模多機能ホームご利用事例紹介</p> <p>9. その他</p>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>質問・要望・助言</th><th>回答・対応</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小規模多機能の特徴である訪問回数251回についての補足説明。</td><td>小規模多機能は送迎の際に、送り出しの準備や戸締り、清掃などの業務を組み合わせて柔軟に支援を行っている。顔なじみの関係で必要に応じて支援できるのが特徴である。入浴介助、配食、清掃なども含めてその方のニーズに沿った支援を行っている。</td></tr> <tr> <td>在宅の方の医療面での関わり方について、検査や服薬管理、受診・往診などの必要な支援、体制整備がどこまでできるか、事情によって十分できないケースもある、そういう点についてどのように考えれば良いか。</td><td>在宅の方、ご本人の生き方、希望というものがある。医者にかかりたくないという強い意志のある方もある。またご家族の思いもありそのバランスをどうとるかが難しいところである。ご本人がご家族や地域の方々、専門職と何等かのつながりをもっていることが大切である。</td></tr> <tr> <td>認知症の方の周辺症状について。徘徊などへの対応について。</td><td>小規模連絡会で周辺症状の勉強会をした。帰宅欲求のある方、徘徊される方など、事例研究を行った。徘徊の方には、GPSをつける、生活のリズムをつける、行方不明者登録を行うなどが有効であるとのことであった。</td></tr> <tr> <td>徘徊、行方不明については、とにかく地域との繋がりを大切にすることである。近隣の協力を得て発見、救援につながったケースが多い。</td><td>当ホームとしても、在宅の方の近隣の方々、民生委員の方々とのつながりを大切にしていきたい。</td></tr> </tbody> </table>				質問・要望・助言	回答・対応	小規模多機能の特徴である訪問回数251回についての補足説明。	小規模多機能は送迎の際に、送り出しの準備や戸締り、清掃などの業務を組み合わせて柔軟に支援を行っている。顔なじみの関係で必要に応じて支援できるのが特徴である。入浴介助、配食、清掃なども含めてその方のニーズに沿った支援を行っている。	在宅の方の医療面での関わり方について、検査や服薬管理、受診・往診などの必要な支援、体制整備がどこまでできるか、事情によって十分できないケースもある、そういう点についてどのように考えれば良いか。	在宅の方、ご本人の生き方、希望というものがある。医者にかかりたくないという強い意志のある方もある。またご家族の思いもありそのバランスをどうとるかが難しいところである。ご本人がご家族や地域の方々、専門職と何等かのつながりをもっていることが大切である。	認知症の方の周辺症状について。徘徊などへの対応について。	小規模連絡会で周辺症状の勉強会をした。帰宅欲求のある方、徘徊される方など、事例研究を行った。徘徊の方には、GPSをつける、生活のリズムをつける、行方不明者登録を行うなどが有効であるとのことであった。	徘徊、行方不明については、とにかく地域との繋がりを大切にすることである。近隣の協力を得て発見、救援につながったケースが多い。	当ホームとしても、在宅の方の近隣の方々、民生委員の方々とのつながりを大切にしていきたい。
質問・要望・助言	回答・対応												
小規模多機能の特徴である訪問回数251回についての補足説明。	小規模多機能は送迎の際に、送り出しの準備や戸締り、清掃などの業務を組み合わせて柔軟に支援を行っている。顔なじみの関係で必要に応じて支援できるのが特徴である。入浴介助、配食、清掃なども含めてその方のニーズに沿った支援を行っている。												
在宅の方の医療面での関わり方について、検査や服薬管理、受診・往診などの必要な支援、体制整備がどこまでできるか、事情によって十分できないケースもある、そういう点についてどのように考えれば良いか。	在宅の方、ご本人の生き方、希望というものがある。医者にかかりたくないという強い意志のある方もある。またご家族の思いもありそのバランスをどうとるかが難しいところである。ご本人がご家族や地域の方々、専門職と何等かのつながりをもっていることが大切である。												
認知症の方の周辺症状について。徘徊などへの対応について。	小規模連絡会で周辺症状の勉強会をした。帰宅欲求のある方、徘徊される方など、事例研究を行った。徘徊の方には、GPSをつける、生活のリズムをつける、行方不明者登録を行うなどが有効であるとのことであった。												
徘徊、行方不明については、とにかく地域との繋がりを大切にすることである。近隣の協力を得て発見、救援につながったケースが多い。	当ホームとしても、在宅の方の近隣の方々、民生委員の方々とのつながりを大切にしていきたい。												
次回、運営推進会議は令和元年11月27日（水）10時30分～12時00分までの予定。													